

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・児童司会による児童会行事を行い、児童の主体性を育む活動に取り組んでおり、児童自らが学校を動かしているように意識をもたせることで、学校に活気があふれ、児童の自信に繋がっている。この活動は、来年度の新しい厳木小学校でも生かしていきたい。 ・校内研究については、これまで研究してきたことを踏襲し、「自ら考えて伝え合う言語活動の在り方を探る」「自己評価と見取りを学びに生かす授業づくり」について研究を進め、授業実践をした。これまで積み重ねてきた「厳木小学校スタイル」の授業実践を続けていくことで、子どもたちの力をよりいっそう伸ばすことができると考える。 ・教科関連的な視点で単元づくり・授業づくり・環境づくりを行うことで、効果的な教育課程を実施することにつながっている。 ・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、地域、家庭と連携を図りながら、教育活動を行ってきた。来年度、さらに地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。 ・地域人材の豊かな知識や経験を生かした支援により、体験からの学びを充実させることができた。児童の課題意識に応じた体験学習や郷土の課題解決のために自分や地域住民でできる持続可能な取組などを充実させていく必要がある。来年度は、お互いの学校で取り組んだことの良かった点を生かし、体験学習に取り組んでいきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	夢に向かって 自ら学び続けようとする 子どもの育成 ～地域とともに未来を拓く厳木小中学校～
----------	--

3 本年度の重点目標	令和6年度の重点目標 (1) 小中連携・学力向上……小中併設校として、9か年の学習内容や児童・生徒の発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 (2) 個に応じた教育の充実……児童・生徒一人一人の長所や強みに着目して、多様なニーズを有する子どもたちに対応した学びを実現させることで、ウェル・ビーイングの向上を図る。 (3) 社会性の育成……児童・生徒一人一人に出番や役割を設け、活躍する場面を設定し、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。
------------	---

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価					主な担当者
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○唐津の学びスタイルチェックシートに示した学びの実現状況が2.8以上の教師80%以上	・学期末に唐津の学びスタイルチェックシートを記入し、指導法を振り返る。課題については重点項目として全職員で共通理解し、改善を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。振り返り活動で出た児童の感想を次時の学習活動に生かす手立てを取る。 ・児童自身が学びをメタ認知できるように振り返りの場を設定し、唐津の学びのスタイルに沿った授業展開ができるようにする。	・		・		・		学力向上コーディネーター 研究主任 研究副主任	
	○主体的・対話的で深い学びの展開 ○主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると答える児童85%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上									
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事やなかよし班の活動に積極的に参加し、異学年との交流を楽しむ児童80%以上 ○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・月1回のおひさま朝会の実施 ・人権擁護委員会による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施 ・実行委員会や委員会、クラブ、集会などの場において、それぞれの個性や立場を認め合える活動を仕組む。	・		・		・		人権・同和教育担当 道徳推進教員	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○道徳授業や人権集会、特別活動等を効果的に活用し、いじめを生まない風土や集団づくりに取り組む。 ○生活問題協議会、アンケートによるいじめの早期発見・早期対応に取り組む。 【保護者アンケート90%】	・なかよしアンケート(毎月)を実施し、実施後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。 ・生徒指導協議会で、気になる児童について全職員で共通理解し、対応を考える。 ・OUアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。	・		・		・		教育相談 生徒指導担当	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・キャリア教育に取り組む、それぞれの未来への思いを学級で共有することになりたい自分実現につなげる。 ・児童が主体的に取り組む児童会行事を行い、児童の主体性を育む。	・		・		・			特活部
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・体育的行事を通して、「運動が大好きな子ども」を育てる。 ・運動能力向上につながる動きや遊びを授業の中で児童に紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。	・		・		・		保健部	
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●学校は、「健康に良い食事」を意識するよう呼びかけたり、振り返る場を設定したりすることで、望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成に取り組む。 【児童アンケート85%以上】	・「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図るために、毎週水曜日に元気チェックで生活習慣を振り返らせる。保護者に生活振り返りシートにコメントしてもらう	・		・		・			
	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	・授業において睡眠やスマートフォン・ゲーム時間を守ることの大切さを伝える。 ・生活アンケートを定期的に実施し、規則正しい生活習慣の意識を高める。	・		・		・			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・マイ定時退勤日を設定し、1週間のうち必ず1日は定時退勤をするようにする。 ・時間外勤務時間調査等をこまめに行いながら、勤務の適正化がよりよい教育効果に繋がることを伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。 ・教材をデータベース化したり、校務事務の共有化したりすることで、事務作業の時間を軽減する。 ・チームワークを生かし、職員間で連携・協働しながら業務を行うようにする。	・		・		・		教頭 教務	
	○職員の心身の健康	○本校独自に設定したストレスチェック項目のうち、該当するものが20%以下の職員が80%以上 ○年間休取得15日以上を目指し、パースデイ休の完全取得を目指す。	・定期的にチェックを行う。 ・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切にし、ケアの充実を図る。 ・年休取得について呼びかける。	・		・		・		教頭 教務	
●特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85パーセント以上	・全職員を対象とした特別支援教育に関する研修会を年3回行う。 ・配慮を要する児童について随時ケース会議を行い、支援の在り方を協議する。 ・必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門機関と連携し、よりよい支援に繋ぐ。	・		・		・		特別支援教育	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
◎志を高める教育 ○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	◎地域と連携を図りながら郷土を誇りに思う児童の健全育成 ○積極的に地域人材を活用し、地域での体験活動の推進の中でふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力を育む、	◎地域の人・もの・ことを活用した体験型学習 全学年年間3回以上 【各学年の体験活動実施3回以上】 ○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上	・授業参観などを地域の方々にも参観し、いただき、意見をもらう。それを基に学びを充実させる手立てを工夫していく。 ・地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。							教務 教頭	
○開かれた学校づくり	○家庭や地域との連携	○学校だよりを月1回以上発行し、学校ホームページの更新を定期的に行い、学校教育の情報を公開する。	・学校だよりの発行を月1回以上発行し、学校ホームページの更新を常時更新することにより、学校教育の情報を多方面に発信する。	・		・		・		教頭	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--